

# こうちふるさと寄附金の実績と活用状況のご報告

## 1 寄附金の実績

平成20年度には、「こうちふるさと寄附金」として、168件、13,269,817円のご寄附をいただきました。改めて感謝申し上げます。

## 2 寄附金の活用状況

平成20年度にいただいた寄附金は、下記の平成21年度の事業に活用させていただきました。

### <分野1 こうちの「山」「川」「海」の環境を守り育てる>

#### ○希少野生動植物保護対策事業（予算額1,204千円、決算額922千円）

高知県希少野生動植物保護条例に基づく県指定種である「マイヅルテンナンショウ」の四万十市の生息地を、平成21年8月に保護区として指定し、その保護区指定を周知する看板の設置やパンフレットの配布を行い、県内での広報に努めました。

また、この保護区で野生動植物の保全活動を行う団体に対し助成を行い、希少野生動植物保護活動の推進を図りました。



#### ○清流基準モニタリング事業（予算額600千円、決算額600千円）



国の定める環境基準では高知県内の河川のように水の汚れが非常に少ない清流を評価できる水質基準が制定されていないため、その清らかさを人間の感覚に近いもので表現することを目的として、四万十川流域の学校等で、身近な川の環境調査のレクチャー・実技指導や四万十川条例の概要についての講義・指導を行いました。また、学校等及び高知県環境研究センターが水生生物採取調査とデータ測定を実施し、その結果を環境共生課がホームページで公表しました。

#### ○環境美化推進事業（予算額597千円、決算額597千円）

「清潔で美しい高知県をつくる条例」に基づき、2月の県民一斉美化活動期間を中心に県内各地で美化活動を実施しました。また、協力企業等との連名でゴミ袋や啓発資材（のぼりやポスター等）を作成したほか、清掃後には花壇新設などの美観創出を行いました。



## ＜分野2 ふるさとの文化と子どもたちを守り育てる＞

### ○子育て応援広報事業（予算額2,901千円、決算額2,901千円）

少子化が進行する中、子育て家庭に役立つ情報や少子化対策に関する情報、県民会議の取り組みなどの少子化対策の総合的な情報を、情報紙を通じて県民に発信することにより、子育てを応援する機運を醸成しました。



### ○自動車文庫訪問事業（予算額2,114千円、決算額1,950千円）

公立図書館がなく、厳しい読書環境にある13町村に対し、子どもが「読みたい」と思うような、また子どもに「読ませたい」と思うような良質な図書を提供するため、合計907冊の図書を送付し、貸し出しを行いました。各町村での公民館図書室の貸出冊数は、前年度に比べて1町村当たり平均151%と、大幅に増えています。

希望があれば延長も可能ですが、返却された図書は別の町村に新たに貸し出しを行うこととしています。

### ○ふるさと教育推進事業

#### ・学習教材作成委託（予算額1,306千円、決算額1,300千円）

坂本龍馬の生い立ちや功績等について学校や家庭で学習するために、冊子「坂本龍馬を知っちゃう？」を作成し、県内全小学5、6年生（14,203人）に配布しました。



#### ・ふるさと教育推進事業費補助金（予算額1,138千円、決算額1,138千円）

郷土の歴史や文化、子どもたちとの交流活動等について、地域で専門性や広域性を生かして活動している団体に助成を行いました。

高知県連合婦人会が行ったお遍路さんへの接待では、参加した子どもたちも積極的にお接待を行い、お接待を受けたお遍路さんからは、心温まる感謝の手紙が幾通も届きました。県外からの方に対するおもてなしによるイメージアップや、県民のふるさとに対する意識アップにもつながりました。

### ○幼少期における感動体験モデル事業（予算額2,040千円、決算額1,578千円）

10歳頃までの幼少期における親子でのさまざまな感動体験ができるような環境づくりを推進し、



次代を担う子どもたちの育成を図るために、幼少期の子どもと親を対象とした自然・文化・社会体験事業や、体験活動の指導者育成のための研修、一般県民を対象とした体験活動に関するフォーラム等を実施する団体に対し、経費の補助を行いました。

また、平成20年度に作成した幼少期感動体験プログラム作成ガイドラインに引き続き、別冊を作成し、配布することで、その普及に努めました。